

## 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	由良町立由良港中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	2	1	6	11
生徒数	29	42	36	1	108	

## 研究の概要

## 1. 研究主題

## 『確かな学び』の育みを目指して

～ 基礎・基本の徹底と個が活きる指導の工夫 ～

## 主題設定の理由

## (1) 今日的な教育課題から

新しい学習指導要領の完全実施に伴い、そこでは「完全学校週五日制の下で、各学校がゆとりのなかで特色ある教育を展開し、生徒に豊かな人間性や基礎・基本を身につけ、個性を生かし、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」を培うこと」を基本的なねらいとしている。

一方では、学校週五日制に伴う授業日数の減少、学習内容の3割削減といったことから、学力の低下を危惧する声があり、文部科学省では、平成14年1月17日『確かな学力の向上のための2002アピール「学びのすすめ」』を発表し、確かな学力向上のための方策を示した。

このなかの一つとして、「学力向上フロンティア事業などにより、確かな学力の向上のための特色ある学校づくりを推進し、その成果を適切に評価する。」と提唱した。

本校では、平成15・16年度において、「学力向上フロンティアスクール」の指定を受けるにあたり、そこに示された新しい学習指導要領のねらいとする「確かな学力」の向上に資するという趣旨をおさえることにした。

## (2) 本校の教育目標・研究課題から

本校では、従来から「一人ひとりの個性を活かし、自ら考え、判断し、行動できる生徒を育てる」ことを基本方針として、「基礎学力の定着」「学力ある生徒の育成」を教育目標の一つとして掲げてきた。また、平成13・14年度において、「個を活かす指導法の創意工夫」を研究主題としてチームティーチング、選択教科、総合的な学習の時間などで、指導方法の工夫改善の取り組みを進めてきたところである。

これらのことから、本事業の趣旨である「確かな学力」をキーワードとして、きめ細かな指導の充実により、個が活き、自ら考え行動できる生徒の育成に資したいと考えた。

## 2. 研究内容与方法

### (1) 実施学年・教科

#### 全学年 全教科

本事業の実施要項には、「確かな学力」の向上に資するとある。そして、【「確かな学力」と「豊かな心」を子どもたちにはぐくむために...】[文部科学省 平成15年度リーフレット] のなかに「確かな学力」として、次のように示している。

揺るぎない基礎・基本      思考力、表現力、問題解決能力      生涯にわたって学び続ける意欲  
得意分野の伸長              旺盛な知的好奇心、探求心

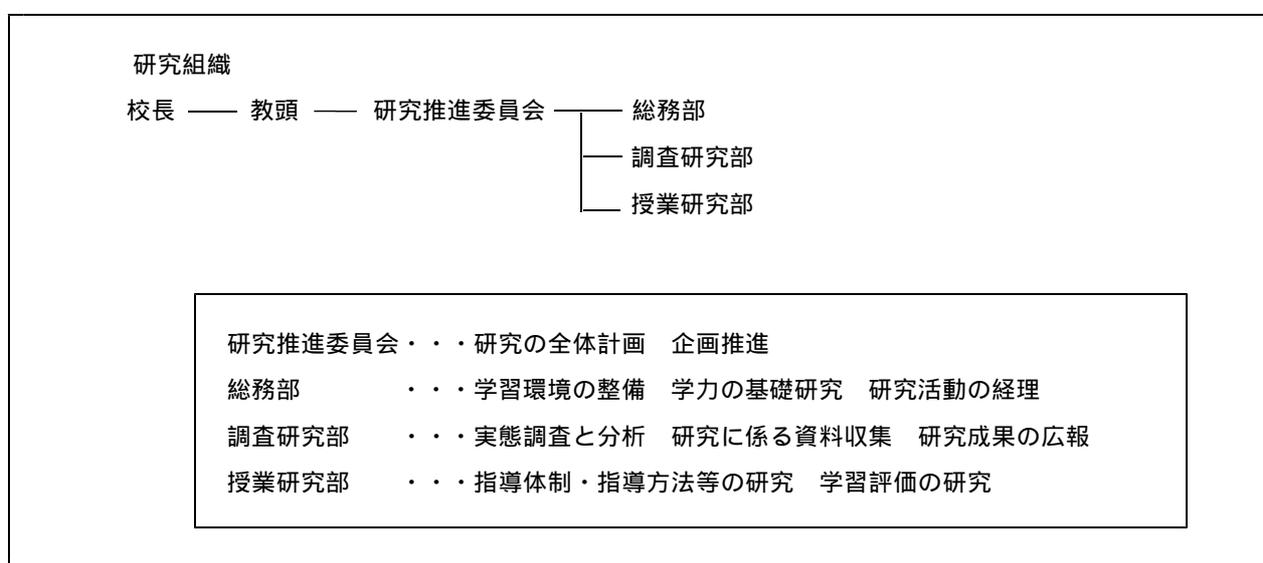
そこで、本校は小規模な学校でもあり、「確かな学力」を育てていくためには、単学年・単教科の取り組みでは限界があると考え、全校的な取り組みとし、教科学習を支える基盤となる学習規律・学習習慣などに目を向けることが、「確かな学力」への確かな歩みと考えた。

### (2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>『確かな学び』の育みを目指して</p> <p style="text-align: center;">～ 基礎・基本の徹底と個が活きる指導の工夫 ～</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>教科学習を支える取り組みを充実し、</p> <p>教科学習の工夫改善によって「確かな学力」が身についていくであろう。</p> <p>仮説検証の視点 ... 「確かな学力」が身についただろうか。</p> <p>*生徒側の視点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・教科学習の基礎、基本が身に付いただろうか。</li><li>・学習に対する意欲が高まっただろうか</li><li>・思考力、表現力、問題解決能力が高まっただろうか</li><li>・自分の得意分野を発見し、伸ばすことができただろうか。</li><li>・知的好奇心や探求心が高まっただろうか。</li></ul> <p>*教師側の視点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生徒の実態を把握でき、指導の工夫改善に活かせただろうか。</li><li>・基礎、基本の徹底のために、授業にどのような工夫改善ができただろうか。</li><li>・学習を支える取り組みに、どのような工夫改善ができただろうか。</li></ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>学力向上のための教科学習を支える取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"><li>*実態調査 ... 子ども・保護者の学習や生活に対する意識調査</li><li>*学び方の課題 ... 「学習の手引」の改訂</li></ul> <p>学力向上のための教科学習の工夫改善の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"><li>*各教科等の授業の工夫改善の課題</li></ul> <p style="text-align: center;">指導形態 教材教具 指導方法 学習評価 選択教科 等</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>上記の項目については、2年間を見通して設定したものであり、前年度と同じとする。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>学力向上のための教科学習を支える取り組み</p> <p>*実態調査 … 再度調査して、比較分析をする。</p> <p>*学び方の課題 … 改訂した「学習の手引」の活用方法を研究する。</p> <p>学力向上のための教科学習の工夫改善の取り組み</p> <p>*各教科等の授業の工夫改善の課題</p> <p>前年度の成果と課題から、一層の指導の充実を図る。</p> <p>学力診断テストを実施して、事業の成果を探る。</p>
--------	--

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究の成果

本校では、「教科学習を支える取り組みを充実し、教科学習の工夫改善によって確かな学力は身に付いていくだろう」との研究の仮説を想定した。

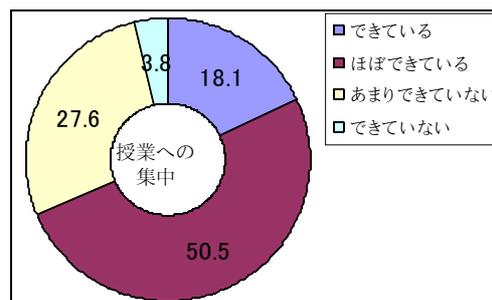
今年度の取り組みについて、次の視点から仮説を検証して研究の成果を探ってみることにする

#### 教師側の視点

**生徒の実態を把握でき、  
指導の工夫改善に活かせたらどうか。**

この視点に対して、生徒・保護者に対して「学習・生活に  
いての意識調査」を実施した。（研究紀要 51～60頁）

**授業を集中して受けることができるか。**



以下、その結果からいくつかを取り出して考察してみた。

#### 生徒の意識調査

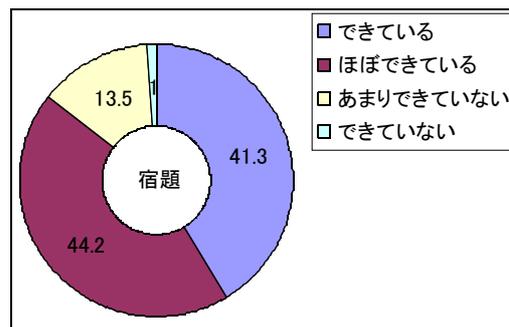
授業に集中できることは、学力向上を考えるうえでは欠くことのできない要因であり、最も基本的な学習習慣である。集中できていない状況では、「私語、いねむり、落書き、他人へのいたずら」等が想定でき、このような状況では自分自身の課題とともに、学習集団全体としての課題となり、学力向上のための重要な視点である。

この問いに対して、2 / 3 程度の生徒が「できている」「ほぼできている」と答えていることからして、一定の学習集団としてのレベルに達していると思われるが、授業のなかでは「あまりできていない」「できていない」と回答した生徒の存在が数値以上のインパクトを生じ、学力向上のキーポイントともなる。

宿題についても、家庭学習の状況を示すものと考えられる。

「学びのすすめ」のなかでも、指摘されているように学力向上の一つの方策として考えていきたい。

#### 宿題はきちんと出しているか。



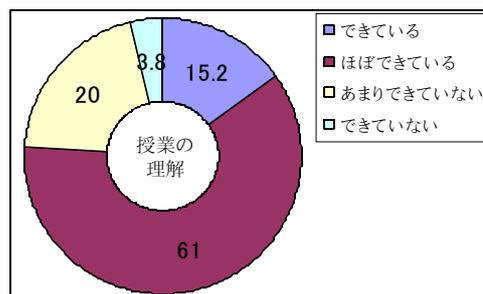
また、次に生徒が自分自身の学習の達成度合・学習意欲をどう捉えているかを問うてみた。

「授業は理解できているか」の問いに対して、本校生徒の実態として、80% 足らずの生徒は「できている」「ほぼできている」と答えている。

後述するが、平成15年11月に実施した和歌山県学力診断テストの教科別平均正答率の数値とほぼ一致する数値である。

このことからすると、本校生徒は学習に対して一定の基礎・基本の条件を備えていると考えられるものの、マイナス要因をもつ約20%余の生徒については、今後その対応を探っていく必要がある。

#### 授業は理解できているか。

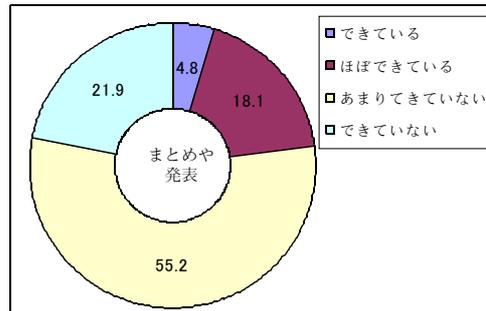


学力の内容を の問いから見たとき、「できている」「ほぼできている」と回答した生徒は、20%余に過ぎない。

【(英語)「大きな声で発音すること」「真面目に勉強する」を、「恥ずかしい」ではなく、「かっこいい」と思わせること】

【(音楽)「大きな声で歌えた。気持ちよかった」といった指摘もあり、そこには、個人個人の課題と同時に、学習集団としての課題が大きいと思われる。

#### 授業で考えをまとめ、発表できているか。



また、同様にここでは示していないが、「宿題」の項で垣間見えるように活動を支える基礎・基本的な部分、基本的な生活習慣や健康といった課題にも迫っていきたい。

#### 基礎・基本の徹底のために、授業にどのような工夫改善ができただろうか。

各教科(国語・社会・数学・理科・英語・音楽・美術・家庭・保体)で、「学力向上のための教科学習の取り組み」として、それぞれにテーマを設定して授業研究を実践した。各教科のテーマは次の通りである。

(研究紀要 13 ~ 47 頁)

教科	指導者	テーマ
国語	深瀬 恵司	読む・書く・話す能力の向上 ～ 古典学習を通して、読む力を育成する指導 ～
社会	根岸 隆一	基礎・基本の確実な徹底と個に応じた学ぶ意欲を支援する指導法 ～ 診断的評価を実施し、結果を勘案した指導法の工夫 ～
数学	前田 芳郎	確かな学力を定着させるために ～ 基礎・基本の徹底と個が活きる指導の工夫 ～
	西川 雅祥	個を活かし、生徒の「確かな学び」を育むための指導方法 ～ 効果的なTT指導、少人数指導のあり方の追求 ～
理科	森本 仁志	少人数学級における形成的評価と個に応じた指導
英語	高台 浩	音読の指導について ～ どのようにして積極的に取り組ませるか ～
	千原 一晃	英語学習に対する学習意欲の向上 ～ 積極的に英語を使おうとする意欲を高める ～
音楽	西山 元予	自己学習力の向上をめざして ～ 選択音楽における取り組みを通して ～
美術	一色 秀之	美術科における鑑賞能力の向上をめざして ～ コンピュータを活用した美術授業を考える ～
保体	山本 一也	主体性を生かした体育活動 ～ 課題を明らかにした活動と自己評価を生かした指導 ～
家庭	福井 知恵	主体的に取り組む生徒の育成 ～ 50 cmの布を使った被服の製作を通して ～

### 学習を支える取り組みに、どのような工夫改善ができただろうか。

学習規律の確立のために、「学習の手引」の改訂をした。(研究紀要 61～75頁)

このなかでは、「授業での学習のきまり」「家庭での勉強のしかた」「各教科の学習法」「選択教科について」「総合的な学習の時間について」「テストの受け方」等を掲載した。

これをどのように活用し、学力向上の糧としていくかについて、次年度の課題とする。

### 生徒側の視点

#### 教科学習の基礎・基本が身についただろうか。

次の表は、平成15年度和歌山県学力診断テストの本校の各教科別平均正答率である。

ここにある数値から、本校の学力の状況について単純に判断することができないが、この数値をもとに次年度の課題を探っていきたい。

平成15年度和歌山県学力診断テスト正答率

	国語	社会	数学	理科	英語
1年	85.2	65.2	71.4	69.1	87.5
2年	77.9	74.3	77.1	66.0	89.4
3年	79.0	63.3	73.6	70.5	82.8

また、今年度の取り組みでは、各教科から次のような報告があり、一定の成果を得ることができた。

- 「竹取物語の冒頭部分を、全員が暗唱できた」(国語)
- 「確認テストの結果、全体に基礎的な計算力が高まった」(数学)
- 「CからBへ、BからAへの向上が学習時限中に見られた」(理科)
- 「お年寄りとの活動で、音楽が生活に生きて働くものとして実感できた」(音楽)

#### 学習意欲が高まっただろうか。(各教科の取り組みから)

- 「竹取物語というなじみのある昔話が教材であったことで、意欲的に取り組めた」(国語)
- 「実験操作活動を取り入れたことで、主体的に学習活動に取り組めた」(数学)
- 「英文日記に、意欲的に取り組む生徒が増えた」(英語)
- 「練習はしんどかったけど、充実感があった」「練習時間がほしい」の生徒の声(音楽)
- 「種目選択制で、より意欲的に活動した」(体育)
- 「鑑賞に、デジタルコンテンツの活用したことで、わかりやすかったとの生徒の声を得た」(美術)
- 「オリジナルデザインの製作活動で、製作意欲が高まった」(家庭)

また、このことに関する課題として、次のようなことも上げられている。

- 「教材による、生徒の興味・関心・意欲の差への対応」(国語)
- 「学習意欲の高めるための教材開発」(社会科)(数学)
- 「単元導入時の診断的評価の概念マップづくり・幅広い資料に基づいた総括的評価の充実で意欲がもてる学習活動の構築」(理科)
- 「英語は楽しいと感じられる工夫」(英語)

#### 思考力・表現力・問題解決能力が高まっただろうか

実態調査のなかでも、「授業で積極的に発表できているか」という項目で、「できている」「ほぼできている」と回答した生徒が20%程度であり、一つの課題である。

- 「実感的に発見できる実験で、意欲を持って取り組み、積極的に発表できた」(理科)
- 「ペアでの音読で、挙手して発表できるようになった。この状況の維持が課題」(英語)
- 「大きな声で歌えた気がする。チョットうれしかったです。との生徒の声」(音楽)

#### 自分の得意分野を発見し、伸ばすことができただろうか。

##### 知的好奇心や探求心が高まっただろうか。

- ・ の視点には、検証する材料を得るまでには至らなかった。

ただ、選択教科や総合的な学習の時間における生徒の活動を見るとき、これらについての本校の取り組みがこの課題に対して、大きな働きをしているものと判断している。

## 2. 今後の課題

本校では2年間のスパンで、次の2点を研究課題として取り組みを進めてきた。本年度はその基盤づくりとしての取り組みで、前述の成果を見出した。

次年度も、この視点から学力向上への取り組みを充実していきたい。

学力向上のための教科学習を支える取り組み

\* 実態調査の再実施

今年度の数値から、課題を見だし、再調査でその成果を図る資料とする。

\* 「学習の手引」の活用

今年度は改訂作業に終わっている「学習の手引」の活用についての取り組みを充実する。

学力向上のための教科学習の工夫改善への取り組み

\* 各教科での取り組み

今年度の成果と課題をふまえて、研究主題「基礎・基本の徹底と個が活きる指導の工夫」に迫るために、各教科で授業の工夫改善を試みる。そこでは、次のような課題が焦点となる。

- ・ ティームティーチング・少人数といった指導形態
- ・ 習熟度別等の指導方法
- ・ 教材・教具の開発
- ・ 評価を生かした指導

学力等把握のための学校としての取組

定期テスト 一定期間における学習の定着を確かめ、指導の課題を明らかにする。  
(中間テスト・・・6月 11月 国語 社会 数学 理科 英語)  
(期末テスト・・・7月 12月 3月 全9教科)

和歌山県学力診断テスト

基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るため、学力診断を行い、学習指導に関する課題を明らかにし、指導方法の工夫改善に資する。(11月) (国語 社会 数学 理科 英語) (全学年)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究発表会の開催

本校の研究成果の普及と、関係者からの教示を得て、本校研究推進の方向を確かめるために研究会を開催した

平成16年 1月15日(木) 本校で開催 出席者; 県内学校教員60名

公開授業 第1学年(数学 理科) 第2学年(英語 美術) 第3学年(数学 英語)

研究協議 取り組みの概要を発表して、指導講評を受ける。

資料 研究紀要(別添) 公開授業指導案(別添)

和歌山県学力向上推進協議会への出席(5月 3月)

本校の取り組みの概要報告

日高地区学力向上推進協議会への出席(5月 2月)

本校の取り組みの概要報告

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他

【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無